

コミュニケーションの要は相手への敬意

— 公演が決定してから本番までの指揮者の仕事について教えてください。

三ツ橋 指揮者の仕事はスパンが長く、演奏会はたいてい一年から二年先の予定です。オーケストラのリハーサルは通常一日から三日。リハーサルまでに準備を重ね、楽曲の構成を理解し、練習方法などを練り上げます。その間に曲について勉強することが、指揮者の大切な仕事になります。

まず「楽譜に何が書いてあるか」を知らなくてはいいけません。それはもちろん表面的な音だけではなくて、作曲家の技法、ハーモニー分析、作品が成立した背景、他の作曲家たちとどう影響を受けあったのかなど多岐にわたります。時代の他の芸術に触れ、オペラなら原作を読み、知識を深めて多角的に分析します。同じ曲でも公演ごとに勉強を重ねることで、新しい発見が

## 指揮者

### 三ツ橋敬子

Keiko Mitsuhashi

限られた時間のリハーサルで演奏者たちをまとめ、演奏会を成功に導くのが、指揮者三ツ橋敬子さんの仕事だ。

彼女が創造の現場で発揮するのは、剛腕のリーダーシップではなく、積み重ねた勉強と演奏者への敬意に裏打ちされた、柔らかな思考。

国内外で幅広く活躍する三ツ橋さんの語る指揮者像は、今日の経営への示唆に満ちている。

文 打越由理 写真 片山貴博

あります。

聴衆に曲の背景を説明するわけではありませんが、これらの勉強は、曲の解釈に厚みをもたせ、演奏に説得力をもたせます。

指揮者にとってリハーサルは、仕事の大部分を占めます。演奏会に向けて完成度を高めるための大事な場です。限られた時間でどう楽曲を

仕上げるか、どこから練習を始めるか、どの部分に時間をかけるかなど、考えて臨みます。それでも蓋を開けると想定と違うことがあるので、状況をみながら練習時間の配分を調整します。

— 具体的にどのようにリハーサルを進めるのでしょうか。

三ツ橋 リハーサルはドイツ語でプローベと言いますが、この言葉には「試す」という意味があるんです。私が一方的にレクチャーやプレゼンをするのではなく、そこで実際に見つかった課題に「じゃあ、こうしてみよう、ああしてみよう」と演奏者と共に試行錯誤する場が、リハーサルなのです。

時には演奏者と楽曲に対する解釈が異なることもあります。人と人ですから、むしろ意見が

## 指揮者は演奏会で 過去・現在・未来を生きている





合致するほうが少ないかもしれません。それでも、素晴らしい一流音楽家は、無理に説得しなくても自然とお互いの方向性が決まるんですよ。気心の知れた人どうしが、待ち合わせ場所をこと細かく決めなくても同じ所に着いたりする、そんな感じですよ。

私は自分の考えを相手に押しつけることはしません。それでいい結果になる自信と保証があるなら、やりますが。たとえば子どもがすぐく緊張して楽器を弾けない時には「こう弾いたら？」とアドバイスする。でも、一流音楽家どうしでは、まずありません。

オーケストラは、人がアナログで演奏しているものです。体調も、気持ちもいろいろあります。それぞれが事情も抱えたうえで、それでも音楽をしようと、いいものを求めてその場にいる。そのことについては、最大限の敬意を払うべきだとも思っています。

リハーサルを通してコミュニケーションを重ね、指揮者と演奏者が心で通じ合い、みんなでひとつの音楽をつくりあげることがこの上なく楽しいんです。

——海外のオーケストラでも指揮をされていますが、現地の演奏者とのコミュニケーションで大事にしていることを教えてください。

三ツ橋 語学が達者だからといって、相手の文化を尊重して、きちんと受け入れていかないと、また別問題なんですよね。流暢に喋れば喋れるほど、相手は自分達の文化を理解しているものだと思って、礼儀やしきたりを求めら

の女子校に通っていたので、同級生はさまざまなお仕事についています。医師、弁護士、保育士……さまざまな価値観の友人と青春時代を過ごしたことで、自分自身多様な価値観をもち、仕事も私生活もそれぞれマネージして全力で向き合うことができていると思っています。



しようとか、常に計画を立てながら進んでいく。危機管理だけではなく、曲のダイナミクスをどう組み立てていくかも重要です。演奏しながら「いちばん小さいところがここ。いちばん盛り上がる場所に、こうもついでいこう」「あの楽器がハーモニを乱しそうだから抑えて」と同時に考えている。そして演奏会のステージでは「あなた速くなってますよ」とは言えないわけですから、ジェスチャー、目線、表情、あらゆる手段を使って演奏者に伝えます。

そのような時にいちばん大切なのは、オーケストラを崩さないことです。コンサートマスターという、オーケストラと指揮者をつなぐ大切な役割の人がいますが、その人と指揮者が一緒に危機を察知したとしても、とっさの判断ですから同じ方向に対処できるとはかぎりません。それでも、オーケストラさえまとまっていれば、指揮者が孤立してもかまわないのです。

### 指揮者の危機管理術

——本番中にアクシデントもあると思います。が、危機管理はどのように対応していますか。

三ツ橋 指揮者は演奏会において三つの時を一緒に生きている感じなんです。ここまで演奏してきた過去、いま現在出ている音、この先の未来。過去、難しいところで焦って速くなった。現在、ちょっと破綻しかけている。そして未来、こういうことが予測される。じゃあここは少しテンポを落とそうとか、こういうアクシジョンを

### 自分に、仕事に向き合う

——たとえばご飯を作ったりゴミを出したり、日々の生活は雑事に満ちているものです。音楽家はそうしたものは離れて、音楽に没頭する生活が望ましいのでしょうか。

三ツ橋 私自身は、生きる力のない人間は仕事もできないと思っています。音楽家は男女問わず、お料理や整理整頓が好きな人が多いです。もちろん人それぞれですから、音楽一筋で浮世離れた方もいらっしゃいます。私は大学から音楽の学校に通い始めました。それまで普通

——音楽家は常に批評にさらされるお仕事だと思いませんか。そこにはどのように向き合っていますか。

三ツ橋 どんな仕事をしていても、批評を受ける場面はあると思うんです。作曲家のシューマンがその著作の中で、評論家が何もわかって

いないと憤る登場人物に、「新聞なんか糞食らえ！」と言わせています。大作曲家である彼も生涯評論家に悩まされました。評論がどうかということではなく、自分がいちばん自分に厳しくなければいけないと思うんですよ。

良い評が出て悪い評が出て、何をどう自分を変えていったらよりよいものを作っていくのか、を考える。自分自身がいちばん厳しく見る目を持つていけば、他からの評価に心かき乱されることもないのではないかな。そう私は思っています。

### 音楽を入り口に イノベーションの可能性を広げる

——エグゼクティブにはクラシック鑑賞を趣味にしている方が多いと思います。クラシックを楽しむためのアドバイスをお願いいたします。また、「生」の音楽を聴く演奏会にはどのような魅力がありますか。

三ツ橋 そうですね。エグゼクティブにはクラシック鑑賞を趣味にしている方が多いです。その理由を考えてみたことがあります。

クラシック鑑賞が趣味という、ただ聴いているだけと思われませんか。しかし、一人の作曲家にスポットライトを当てると、同時代と共に生きた文学者、画家など、歴史に名を残した偉人たちが切磋琢磨し、刺激しあうことで現代まで残る素晴らしい作品を世に送り出していることがわかります。そうした歴史・背景を知っていることは、いま、これからの世の



神奈川県立音楽堂は、日本初の公立音楽専用ホールである。ル・コルビュジェに学んだ前川國男の建築設計として知られ、1954年に誕生した。モダンでありながら、品格ある建築とクリアな音響は多くの聴衆を魅了してきた。2019年6月にリニューアルオープンを終えて、現在「開館65周年記念 音楽堂室内オペラ・プロジェクト」がスタートしている。  
<http://www.kanagawa-ongakudo.com>  
撮影協力／神奈川県立音楽堂



### ◆公演情報◆

**三ツ橋敬子の夏休みオーケストラ!**  
神奈川県フィルハーモニー管弦楽団とともに贈る子どものためのオーケストラ・コンサート。子どもたちが身体全体を使って音楽を楽しめる企画満載!  
日時/8月17日(土)  
15時開演 [14時開場]  
会場/神奈川県立音楽堂  
チケットかながわ/0570-015-415  
[10時~18時]

**第126回定期演奏会**  
東京ニューシティ管弦楽団  
日時/9月7日(土)  
14時開演 [13時開場]  
会場/東京芸術劇場 コンサートホール  
出演/指揮:三ツ橋敬子 ヴァイオリン:  
トマス・クリスチャン  
お問合せ/03-5933-3266



「ステージの上でオーケストラを聴こう!」という企画。8月17日の「三ツ橋敬子の夏休みオーケストラ!」の公演で体験できる。

©青柳聡

中をどうしていくかを考えるにあたって、とても大切なエッセンスだと思うんです。

現代まで残っている名曲たちというのは、かならず魅力的な部分があるんです。クラシックは一曲が長いですし、難しいと感じる方は、移動中の車の中でクラシックを聴いて、盛り上がった部分だけ「いいな」と感じるだけでもいい。そこからお気に入りの曲を少しずつ見つけていくと、いいですね。

演奏会には、その場でしか味わえない魅力があります。「あちら側の舞台とこちら側の客席」ではないんです。お客さまがコンサートを作るのはよくあること。聴衆が演奏のクオリティを何倍にもする。それを一緒に体感するのはこの上ない贅沢です。

——これからのような活動をしていきたいとお考えですか。

**三ツ橋** 自分自身がレパトリーを広げて、キャリアを積み重ねていくのはもちろん、クラシック音楽に興味を持ってくださる方が一人でも増えてくださればうれしいです。



たとえば、仕事をリタイアされて何か始めた方の興味の入りに口となるコンサートをやっていきたい。また、子どもたちにもいろいろな切り口で音楽に触れてもらう機会を提供できればいいと思います。

### [Profile]

三ツ橋敬子 Keiko Mitsuhashi

東京藝術大学及び同大学院を修了。ウィーン国立音楽大学とキジアーナ音楽院に留学。小澤征爾、小林研一郎、G. ジェルメッティ、E. アツェル、H=M. シュナイト、湯浅勇治、松尾葉子、高階正光の各氏に師事。第10回アントニオ・パドロッティ国際指揮者コンクールにて日本人として初めて優勝。第9回アルトゥーロ・トスカニーニ国際指揮者コンクールにて女性初の受賞者として準優勝。併せて聴衆賞も獲得。国内外から注目を集める若手指揮者。



■本誌ではダイジェスト版を掲載しました。完全版を「Executive Foresight Online」に掲載しています。  
[https://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/\\_ct/17285959](https://www.foresight.ext.hitachi.co.jp/_ct/17285959)